



発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟  
www.hananasu.com / dohek iren  
委員長 梅木 登喜雄  
編集責任者 宮下 敏  
印刷所 有限会社 岡本印刷  
旭川市6条西5丁目 (0166)22-0752  
題字 書家 濱谷彩鶴(はまやさいかく)氏

## 第54回全道へき地複式教育研究大会後志大会特集号

# 確かな実践の共有化と継承、 それらの深化・充実を!

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 梅木 登喜雄



第54回全道へき地複式教育研究大会後志大会が900名を超える参加者を得て、盛会にしかも実り多い内容で無事終了できましたことを皆様と共に喜び合いたいと思います。

この大会は、「潮風渡るえぞ富士の大地に生きる子らに豊かな心と明日拓く力を！」のスローガンのもと、後志管内のへき地・複式教育に携わる教師達の数年に渡る確かな実践の成果が全道に発信された大会でありました。また、昨年の釧路大会から始まった道へき・複連の第7次長期5か年研究推進計画に基いた、2年次目の研究として、「自ら創造的に学び、豊かな心でたくましく郷土を拓く子供の育成」を目指した大会でもありました。私は全ての会場をまわることはできませんでしたが、後志管内 町3村9会場の分科会場では、子どもたちが生き生きとした表情で学習活動に励む姿に心打たれ、研究協議では全道各地から参加された先生方の熱い発言に協議の盛り上がりを感じたと聞いています。プレ大会の経験を生かして、一層

磨きのかかった教師の力と学びあう子ども達の力の結果とっております。また、全道各地のへき地・複式教育に携わる教師の日常実践から寄せられる多くの示唆に改めて北海道の複式教育の力を感じるものであります。大変有難く思います。

さて、道財政が逼迫する中、教育条件に関わる状況が一段と厳しさを増しています。給与の大幅な削減、教育予算の縮減など先行き不透明の時代にあって、未来を拓く子どもたちの教育を、今こそ知恵を絞りながら進めることが強く求められています。教育条件の改善は、「実践なくして、教育条件整備の運動なし。」と言われるように、日々の確かな実践こそが改善への信頼を産み、新たな試みへの希望を育て、夢を持てる教育の創造につながると信じます。幾多の難題を抱え、血のにじむ思いで北海道のへき地・複式教育の歴史を飾ってきた先人の教師へ思いを馳せながら、歩み始めた21世紀を全道の仲間の皆さんと共に刻みたいと思います。

終わりになりますが、後志大会の開催に際し北海道教育委員会をはじめ関係諸団体のご指導ご支援をいただきましたことに厚く感謝を申し上げます。有難う御座いました。

## 第54回後志大会を終えて

北海道教育庁後志教育局長

中江 修



第54回全道へき地複式教育研究大会後志大会が、道内はもとより全国各地から多くの方々の御参加をいただき、大会スローガン「潮風渡るえぞ富士の大地に生きる子らに豊かな心と明日拓く力を！」

の下、成功裡に終了できたことを嬉しく思います。

本大会では、元気で明るい笑顔の子どもたちのよさや可能性を伸ばすため、後志管内の豊かな自然や小規模校としての特性を生かし、情熱に満ち溢れた先生方により実践されてきた研究の成果が、数多く発表され大変心強く感じております。

今日、各学校では、子どもたちに「確かな学力」や「豊かな心」などの「生きる力」をはぐくむことが求められており、地域に根ざした「わが町の教育」を「わが町の子どもたち」のためにどう展開していくのか、自校の特性を生かした特色ある教育を推進していくことが重要であります。

とりわけ、少人数の特性を生かし、子ども一人一人の理解の程度に応じた、きめ細かな学習活動を積極的に展開することは、「確かな学力」の育成を図るために大切であります。

また、へき地は教材の宝庫と言われているように、へき地の豊かな自然や歴史、産業、そして、そこで働く地域の人々などの身近な事象は、その学校ならではの教育を創造する素晴らしい教材であり、大いに活用することが期待されています。

このように考えると、へき地複式教育を進めている各学校には、これまで実践してきた工夫した取組などについて一層広く積極的に発信していく必要があるのではないかと考えております。

北海道へき地・複式教育研究連盟のシンボルマークには、木々の緑と海の青、山間と浜辺が描かれており、後志や北海道のへき地複式教育を進める各校の自然環境がそこにあり、中央の太陽には、燃えるようなへき地複式教育への情熱とひたむきなまでの思いが込められています。その中の子どもと教師の顔を見ておると、大会の当日に各学校で見られた教師と子どもの笑顔が思い出されます。

今日もまた、あの優しい笑顔と自然のぬくもりに溢れるへき地の学校で、素晴らしい教育が推進されていることを思い浮かべながら、「子どもたちに明るい未来あれ」と強く願っている次第であります。

## 後志の子の姿を発信して

第54回全道へき地複式教育研究大会後志大会

実行委員長 金澤 雅志



日本海の潮風香る、秀峰羊蹄に抱かれた後志で開催された、第54回全道へき地複式教育研究大会は、全道各地より900名を超える参加を頂く中、大きな成果を得て終了致しましたことに、心より厚くお

礼申し上げます。

後志での全道大会は、過去5回開催され、多くの優れた教育実践を生み出してきました。その歴史を振り返る時、この「全道大会」を引き受けることは、極めて意義のあることであるが、会員数の減少という困難な状況の中、今大会の有り様を検討し、会員の強い絆を大きな支えとして、複式学校の共同研究体制を強め、その責任の重さを感じながら準備を進めてきました。

『潮風渡るえぞ富士の大地に生きる子らに豊かな心と明日拓く力を！』という思いをスローガンとして掲げ、この大会の特色として心がけたことは、会場校を中心とした各校の児童の育ちの様子を、可能な限り随所に盛り込むことでした。いわば「教育の原点は複式教育である」ことを再認識する大会にしたいという願いでした。それは、関心・意欲を喚起し、児童を中心とした授業作りや、全体会や各会場校でお見せした児童によるアトラクションとして結実しましたし、各会場ごとに、大会の様子を克明に紹介する『速報』の発行や、幾つかの会場で行われた、へき地教師の歌『太陽となろう』の2部合唱の取組などに、その願いが広がっていきました。

準備に要した3年間を振り返る時、研究大会に向けて精力的に取り組んできたへき地複式校の仲間達の力は、後志教育の大きな財産として残されていくものと信じています。そして、今回の研究大会を契機に、改めて「つづらな瞳の子らが、力いっぱい伸びている」と実感できるへき地・複式教育を進めていこうと、気持ちを新たにしているところです。

結びとなりましたが、本研究大会の開催にあたり北海道教育委員会を始め、後志教育局、後志町村教育委員会等、教育関係諸団体や、大会開催に向け関わって下さった多くの方々から頂きました温かいご指導・ご支援に厚く感謝申し上げます、お礼の言葉と致します。